

平成 19 年 1 月の解説（府県天気予報）

【 1 月の天候状況 】

上旬後半に低気圧が発達しながら通過した後、月半ばにかけて弱い冬型の気圧配置となり、北日本、東日本の日本海側の地方では雪や雨が降る日が多くなりましたが、その他の地方では晴れました。月の後半は低気圧や南海上に停滞した前線の影響を受けて、西日本を中心に曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は北日本の太平洋側と東日本の日本海側で平年より多く、その他の地方ではほぼ平年並みでした。降水量は北日本、東日本の日本海側と西日本で平年より少なく、北日本、東日本の太平洋側で平年より多く平年の 300% を超えた観測地点もありました。気温はほぼ全国的に平年より高く、北日本では多くの観測地点で平年より 2℃ 以上高くなりました。

【 1 月の検証結果 】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報、明後日予報ともに 82% で明日予報は例年（注）と同じ、明後日予報は例年より 3 ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は九州南部地方で例年より 9 ポイント低く、九州北部地方では例年より 7 ポイント高くなりました。明後日予報は近畿、中国、四国、九州北部地方で例年より 5 から 7 ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は北海道、九州北部地方で例年より 0.3℃ 小さく、全国平均では例年より 0.2℃ 小さい 1.4℃ でした。また、最低気温の予報誤差は北海道地方で例年より 0.3℃ 小さく、全国平均では例年より 0.1℃ 小さい 1.5℃ でした。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【 1 月の天気予報から 】

天気予報では、数値予報で予想した気圧、温度、湿度などの大気的基本的な状態から天気を予想します。地上の予想天気図は、予想した大気の状態をわかりやすく示す資料の一つです。一般的に、低気圧付近では地上付近で周囲から流れ込んだ空気が上昇気流となるため曇りや雨になり易く、一方、高気圧付近では上空か

ら空気が下降するため晴れ易くなりますが、各地の天気はそれほど単純ではありません。

1月25日の夕方に発表した26日（明日）の天気予報では、東京地方の天気を「晴れ 朝晩曇り」と予報しました。これは、日本海から北日本に進む低気圧とは別に、関東地方の南海上を前線が東へ進むものの、関東地方の沿岸近くまでは北上しないと予想し（図1）、前線が近づく夜になっても降水の範囲は関東地方南部の沿岸部に限られると考えたためです。

実際の気圧配置は概ね予想通りになりましたが、関東地方の南海上を進んだ前線上に低気圧が発生し、この低気圧に伴う温暖前線が沿岸近くまで北上して（図2）南から暖かく湿った空気が流れ込んだためその北東側にあたる関東地方南部の広い範囲に降水が広がり、東京地方も26日夜に1mmから3mmの雨が降りました（図3）。

この例のように、高気圧、低気圧など気圧配置がほぼ予想通りとなった場合でも、低気圧や前線の位置が予想と僅かに違うことで、降水の範囲がずれてしまうことが天気予報を難しくしています。

【3月の天気予報の利用にあたって】

3月になると日本付近を低気圧が発達しながら通過して強風が吹くことがあります。ときには強風や突風のために交通障害や停電が発生し、さらには家屋が壊れ、けが人が出ることもあります。また、強い南風で気温が上昇すると、雪の多い地方では雪融けが進み雪崩も発生し易くなります。低気圧が発達しながら通過する内容の予報が発表されたときには、地元の气象台が発表する警報や注意報などの最新の防災気象情報を活用して災害を防ぐように努めましょう。

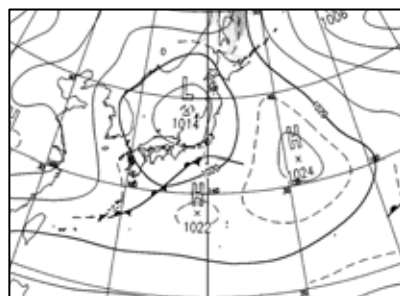


図1 2007年1月24日21時の観測に基づく26日21時の予想天気

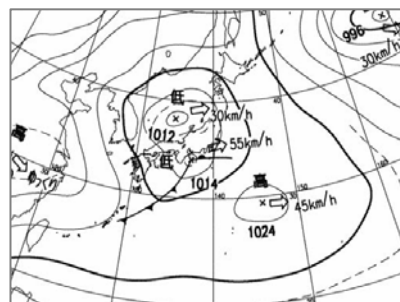


図2 2007年1月26日21時の実況地上天気図

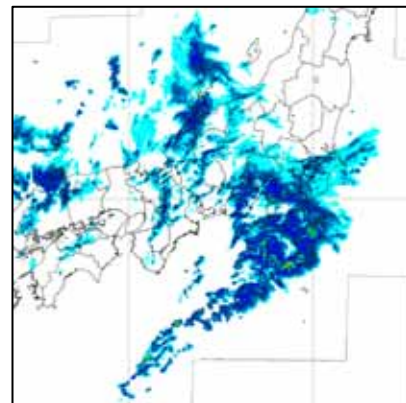


図3 2007年1月26日21時の気象レーダー観測